

研究者：氏田 倫章（所属：新潟大学歯学部 国際交流サークル代表）

事業題目：歯学部学生超短期海外派遣プログラムの推進

目的：

学生主体のサークル活動の一環として国際および地域口腔保健医療に貢献することが目的である。さらに将来の海外留学へのモチベーションを高めること、コミュニケーション能力を向上させることも期待できる。これまでの実績から、海外における歯科医療・歯科医学の実際を体験・認識することによって、国際医療貢献の重要性に対する意識や学習意欲を向上させるという点で、絶大な効果がある。

対象および方法：

対象…新潟大学歯学部学部生（歯学科1～6年，口腔福祉学科1～4年）

事業活動形式…東南アジアの協定締結校歯学部への2週間程度の派遣による現地歯科事情の見学と医療活動参加

滞在期間…2015年8月・2週間

滞在国内…タイ，インドネシア，台湾

現地のカウンターパート：各大学歯学部国際交流担当教員および学生組織

成果：

今年は東南アジア各地（タイ・インドネシア・台湾）の4大学の歯学部それぞれ2名ずつ派遣した。参加者は歯学科，口腔生命福祉学科の学生であり，それぞれの立場で東南アジア歯科医療の実態を学ぶことができた。また現地プログラムにおいて，医療過疎地における歯科医療提供活動への参加，現地歯学部教育プログラムへの参加，現地歯学部学生との交流などの経験を通して国際医療貢献の重要性に対する意識が芽生えた。参加学生は短期留学後も現地学生とSNS等によって連絡を取り，英語でのコミュニケーション能力が向上している。また本学に來ている多数の交換留学生に対しても，本プログラムによる支援を受けて派遣された学生を中心に，積極的な姿勢で留学生の日々の生活のサポートしており，本支援の一部をこのような活動に充てることもできた。

考察：

短期留学で得られる成果は，座学だけでは学ぶことができない，生きた情報の収集と実際のコミュニケーションである。その経験は将来の歯科界を担うために必要不可欠な国際化に対応する教育プログラムにおいて最も重要な位置を占めている。本学部では，大学院学生に対して文部科学省やJSPSの事業による海外エクスターンシッププログラムの提供や若手研究者の計画的かつ組織的な海外派遣を行っている。卒前の歯学部学生に対するこのようなプログラムは，モチベーション高揚とアジアの歯科医療に目を向けるための重要な出発点となっており，卒後の国際化対

応教育プログラムに繋がる非常に重要な事業である。

<タイのチェンマイ大学の活動風景>



図1 矯正科での診療の様子。日本の診療との違いを肌で感じる。



図2 各診療科で生徒とのディスカッション。海外の学生の意識の高さに刺激を受ける。



図3 週末チェンマイ学生との終日観光の様子。親睦を深めお互いの文化を知る良い機会となっている。

<タイのタマサート大学の活動風景>

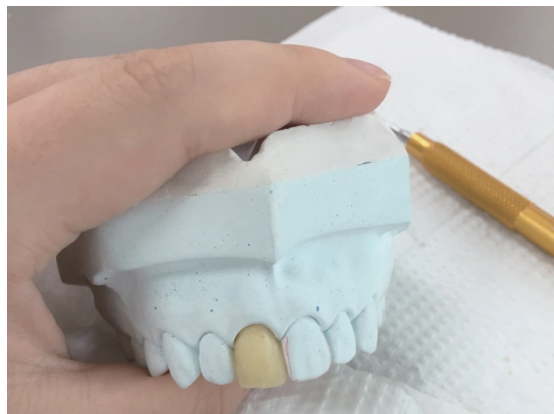


図4 補綴学実習の様子。上顎右側中切歯のワックスアップを行った。



図5 実習を主体としたタマサート大学のプログラム。



図6 ある日の夕食後の様子。毎日タマサートの学生が夕食に同行。親切な対応を通して学生たちは「ホスピタリティとは何か」を知る機会を得た。

<台湾の陽明大学での活動風景>



図7 口腔外科診療所の見学風景。教授や大学院生から熱心な説明、指導を受ける。

<新潟大学歯学部国際交流サークルの活動風景>



図10 タイのタマサート大学と台湾の陽明大学の学生が新潟大学に交換留学生（計9名）として訪問された時の様子。歓迎パーティーの開催や留学生のサポートを国際交流サークルが自主的に行っている。

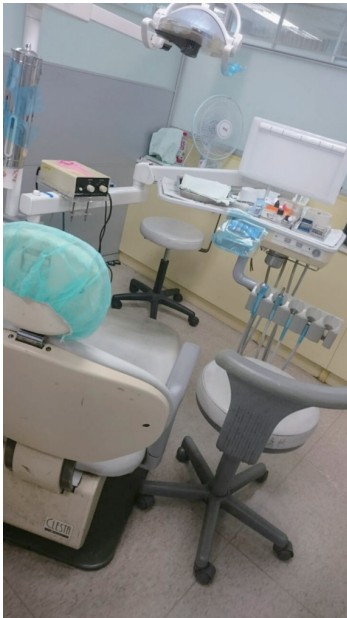


図8 陽明大学のデンタルチェア。新潟大学のデンタルチェアとの違いが見受けられ、海外と日本の基準の違いを知る。



図11 クリスマスパーティーを開催した時の様子。新潟大学医学部と歯学部において大学院生として来日されている留学生も招待し、学部の枠を超えて交流を深めている。



図9 滞在最後のお別れパーティーでの様子。滞在期間中は沢山の方に出会い歯学だけでなく、日台友好の歴史や文化にも触れることができた。